

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2021年3月4日

事業所名 放課後等デイサービスはなはな スタッフ5名

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		遠すぎず近すぎずワンフロアで見られる。	定員数を満たした状態になると手狭に感じている。遊び内容や過ごし方に応じた使用方法をその都度検討している。
	2 職員の配置数は適切である	○		利用人数に対して基準人員2名とプラス1名と配置している。	送迎で職員の出入りが多い時もあり、余裕がない時もあるが子どもの人数が多い時間帯は可能な限り5人体制をとっている。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		事業所内には段差がなく、車イスやバギー等そのまま入ることが出来る。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		会議や子ども達がいらない空いた時間に支援方法の見直しや改善等の共有をしている。	こどもの利用頻度によって支援方法・内容の検討機会の偏りが見られるので随時スタッフ間で共有を行う。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		スタッフ全員で評価表を確認し、把握して業務改善に繋げている。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページに公開している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		法人としての第三者委員はあるが、定期的な評価は受けていない。今後検討していく。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		法人内の研修には積極的に参加している。	外部の研修にはタイミングがあれば参加している。スタッフ全員では難しいので、分けて参加している。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		利用前に面談にてアセスメントの聞き取りをして、情報を基に子どもの状況・課題・ニーズなどを把握し支援計画を作成しています。	利用中はその都度アセスメントをして計画の見直しをしている。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		必要な児童にはツールを利用している。	事業所とご家庭や学校とでのツールが異なる事があるので、状況に応じて適宜連携をとる。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		スタッフ全員で行っている。	より活動内容が本人に伝わるような提示の仕方も立案時に検討する。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している		○		個々のニーズに合わせている。子どもの主体性を大切にしている。保護者の方と相談して、あえて固定化している子どももいるので、『はい』とは言いがたい。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		長期休暇等は、平日よりも利用時間が長いので、長期休暇ならではのものを設定している。	コロナ禍のため、活動が制限されているものの、スタッフ間でどのような活動がいいのか考え、時には子ども達の意見も取り入れて決めている。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		調理実習やおやつの時間に集団活動を行い、宿題や創作の時には個別活動を行う。また遊びに応じて、個人活動や集団活動に分かれて行う。	集団活動の内容・プログラムを検討する。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		その日の体制等をホワイトボードへ掲示し、スタッフ間で共有している。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		当日は送迎等で出来ないことが多いが、合間の時間や翌日に振り返りや気づいた点の話をしている。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の内容を記録し、検証・改善につなげている。	安全性を確保した体制を今後も心がける。

関係機関 や保護者との 連携	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		モニタリングを行い、計画の見直しをしている。	状況に応じた支援方法・内容の計画変更に努める。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせで支援を行っている	○		はなはなでの生活や遊びを通じて基本的動作を習得しながら、創作活動や余暇活動を個人または集団で行っている。	
	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		サービス担当者会議には参加している。	相談支援事業所の方と連携を取り、現状の把握に努める。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		年間計画や行事予定等の情報共有を行っている。また下校時刻の確認や連絡調整も行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		保護者を通してできている。また看護師からは直接指示を受けている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		担当者会議に参加した際に、他の事業所や保育園の先生と情報交換を行ったり、小学校の先生には情報共有に努めた。	今後も積極的に会議等で、情報共有や相互理解に努める。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		法人内の福祉サービス事業所へ移行した児童にはスタッフが直接情報を提供したり、必要があればアドバイス等を行っている。他法人へ行かれた児童に関しては相談支援事業所を通じて情報を提供している。	
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○	現在は行っていない。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	コロナ禍のため、なかなか機会を持てなかった。	
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○		できる限り参加するように心がけている。	
保護者への 説明責任	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時にその日の様子等をお伝えしている。	ご家庭によっては、写真をLINEで送ってお伝えしている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	現在は行っていない。	今後は行っていきたいと考えている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明を行っている。	変更等があった場合には連絡・報告を行うことを留意する。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		ご相談があった時には、対応を行っている。	送迎時や連絡帳等を通じて日々のやり取りの中から、ニーズの掘り起こしを行う。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		学期ごとに保護者会を開き、話し合いの場や保護者同士のつながりの場を提供している。また、不定期にお出かけや食事会等の親睦会を開催し、親子同士で交流を深めて頂いている。	以前は、親睦会にて、親同士の交流や連携を取り、セミナーでは外部の先生にお越しいただき、勉強会をしていた。コロナ禍が終息した後は、企画をする予定である。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情があった場合は迅速に対応している。また案件によっては他機関へ相談して対応している。	

正等	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		年間5号前後、通信を発行し、活動報告、行事予定等を発信している。また、ホームページ上のSNSを活用し、発信も行っている。	必要に応じて、説明や報告又は資料を用いて、ご家庭や本人が分かりやすいような発信を心がける。
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報には十分に注意し管理している。	改善するような出来事は現状ではないが、引き続き留意する。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		連絡帳、メール、FAX等を使ってできている	意思の疎通については様々なツールや非言語コミュニケーション等の方法を用いての配慮を引き続き取り組む。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		法人として取り組んでいる。	今後も継続して実施し、機会を増やせるよう企画検討を進める。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		マニュアルを一新し、事務所に掲示及びスタッフに周知し、確認を行った。また保護者にも説明配布を行った。	今後も定期的な避難訓練を長期休暇等を利用し取り入れていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		毎年夏休みには阿倍野防災センターに行つて災害について学んだり訓練を行っている。また長期休みごとに避難訓練の日を設けて子ども達と勉強会、訓練を行っている。	毎回、地震・火事などテーマごとに行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待や権利擁護の研修を法人として行っている。	改善すべき点は現状ではないが、研修への参加機会を増やせるような体制を目指す。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○	身体拘束をしていない。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		保護者に確認し、今は食物アレルギーのある子どもがいない。	放課後等デイの児童には該当する児童はいないが、児発には該当幼児がいてるので、来所時に昼食やおやつの時間に席の間隔を開けたりアレルギー除去のものを食べるなどの対応を行っている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		大きなヒヤリハットはなかったが、その都度、共有し、再発防止に繋げられるよう取り組んでいる。	ファイルに保管し、スタッフがいつでも閲覧できるようにしている。